

NY日本人学校で終業式

震災救済で赤十字から表彰



二ニューヨーク日本人学校(コネチカット州グリニツク、児童生徒数149人、内野康之校長)で6月30日、1学期の終業式が行われた。

この日は最初に、今夏、キャンパス内から移転する国際交流センターの井上恵嗣ディレクターが挨拶をした。「二ニューヨークでの仕事を通し、たくさんのお会いがありました。そのなかで長谷川滋利選手の話が心に残りました。彼は大リーグへの挑戦をイメージして、ずっと以前から英語を勉強していたそうです。みなさんも未来の自分をイメージして日々を過ごしてください」と激励のメッセージを送った。

続いて内野校長が1学期を振り返り、「スクールビクニックや運動会など、力を合わせてよく頑張りましたね」と語りかけた。さらに「安全に気をつけて夏休みを過ごし、2学期、元気に、みんなでここで会いましょう」と話した。

児童生徒代表のスピーチでは、1学期終了後に本校を去る2人が登壇。2年生の上田真聖さんは運動会について触れ、「諦めなかつたから成功した。みんなの心がひとつになった」と思い出を述べた。

9年生の佐々木文平さんは、本校で過ごした9年間を1年生の頃から振り返った。最後に、「私はJISが大好きでした」とまとめる感動のスピーチに、全校の児童生徒は惜しみない拍手を送った。



生徒達にお別れの挨拶と激励をする国際交流センター井上ディレクター

空手キッズ
リセ・ケネディ

松本道場が指導



リセ・ケネディ日本人学校(大津史恵校長代理)は先月29日、サマースクールのプログラムとしてマンハッタンの大空手松本道場の松本氏を講師に招き空手教室を行った。幼児クラス、小学生クラスに分かれ、各クラスともはじめに空手の心得として相手を敬うことの大切さについて分かりやすく説明を受けた。柔軟体操や発声練習の後、実技に入ると子供たちの表情は一段と引き締まり、松本氏の型をじっと見ながら「ヤ、ヤ」というかけ声とともにこぶしに力を入れた。小学生クラスは自分の姿を鏡に映し自分で型を確認しながら足元、手先に神経を集中させ練習に励んだ。最後に「打ちあいは道場だけです」という大切な約束をし、黙想と押忍のあいさつをして締めくくった。子供たちは「楽しかった」「またやってみたい」と晴れやかな表情で感想を述べていた。

JSHでイベント

気分は有名人

英語で語る



ハリソンにある小人数制の教室、ジャバニーズ・スタディ・ホールNY(泉美徳代表)では先月23日、イベント「有名人になって英語で語る」を行った。

このイベントは、同教室の英語クラスE1クラス(5クラスの中で最もレベル

の高いクラス)の生徒たちによって行われたもので、7人の生徒のうち1人が進行役となり、あとの6人は、映画監督のジョージルーカス、歌手のマイケル・ジャクソン、ヤンキースタジアムのオルガン奏者、エディ・レイトン、元首相の鳩山由紀夫、円谷プロダクション創立者の円谷英二、発明家のトーマス・エジソンに扮した。生徒たちはそれぞれの人物についてのレポートを発表しその後、有名人へのインタビュー記事に取り組み、最後には故人であっても生き返って一人になりきり今の人に語る」というパフォーマンスを行った。当日は保護者やほかのクラスの生徒を招き、大いに盛り上がった。また30日には、英語クラス1学期の終了のパーティーがあり、生徒たちのビデオ上映の後に優秀者3名を表彰し、学期の終わりを締めくくった。